

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成
～自己肯定感を高め、豊かな表現力の育成をめざして～



2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の児童は、各種教育調査の結果によると、各教科とも基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着に課題がある。また、「友達の前での考えや意見の発表」や「学習に自分から進んで取り組む」ことにも課題があることが分かった。

そこで、児童が学ぶことに興味や関心をもつとともに、見通しをもち粘り強く取り組み、自分の考えを表現することで「分かる楽しさ」や「できる喜び」を実感し、豊かな表現力を創造できるよう授業改善を図っていく。その際にGIGAスクール構想の進展により整備された学習用タブレット端末などのICT機器を有効に活用する。また、授業における「学び合い」を推進するため、ペアやグループによる交流の時間を設定したり、座席をコの字型に配置したりする。この取組を計画的・継続的に行うことで、児童が達成感や成就感を得て自己肯定感を高め、主体的に学びに向かい、互いに高め合う児童を育成することができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 課題追求によるめざす児童の姿

- ①学習課題を自分のものとして捉え、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
- ②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
- ③「分かった」「できた」ことに自信をもって表現できる子ども

3 研究内容

(1) 研究の方針、内容及び具体策

自己肯定感を高め、豊かな表現力を創造できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入 ・「めあて」の提示の工夫	ア 自作教材、具体物の活用の工夫 イ ICT機器を活用した導入の工夫 (学習用タブレット端末、デジタル教科書、動画教材等) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫 イ 授業計画シートや板書計画ノートの作成
(2) 学業指導の工夫 ・学びに向かう集団づくり ・子どもが意欲的に取り組む授業づくり	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uや学級力アンケートの実施・分析による学習集団づくり イ 互いのよさを生かし、認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いの時間の確保 (座席のコの字型配置、協同学習等) イ 学習用タブレット端末による思考の表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やICT機器の活用	ア 教材の収集・開発・作成・管理・活用など イ GoogleWorkspaceを活用した学習用タブレット端末による個人の考えの表現の工夫 ウ 課題解決のために活用するICT機器の使い方スキルアップの支援 (情報アドバイザーとの連携)

	②学年相応な家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析 (各種教育調査結果、学校評価) イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示 (「家庭学習のすすめ」を用いた家庭への啓発と協力依頼) ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および 自律的・計画的な学習方法の支援
--	---------------	---

(2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	講話・単元名 (指導者)	課題追究のための手立て等
9/18	6年	S&U コラボ事業 授業研究会 【道徳】「分かり合う喜び」 (指導者) ・宇都宮大学共同教育学部附属小 副校長 佐藤 綾子先生	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する児童の反応を予想し、中心発問において児童がより思考を深めることができるような授業構想を練ること。また、児童が思考を深められるような問い返しや補助発問を吟味するとよい。 ・研究授業の際にはあらかじめ観察する児童(グループ)を決めることで、45分の授業の中で児童の変容を見取ることができるようにし、その様子を授業者に伝えるとよい。
11/20	5年	「学びの共同体」授業実践 【算数】「倍数と約数」 (指導者) ・学びの共同体スーパーバイザー 新村 純一先生	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度解決方法を絞って提示することで、説明もできるようになる。また、つまづいている子も答えを自分で導き出すことができるようになる。 ・教師は、児童がどのように解いているか、思考を深める時間はどれくらい必要かを観察して考える。多くの児童が飽きている時には手を止めさせて、一斉指導に切り替えるようにする。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①個人の考えを表現するための手段としてICT機器の活用を推進したことで、これまで自分の考えや意見を表現することが難しかった児童も、友達の文章を参考にしたり、タブレット上に図や表を用いたりしながら表現することができるようになった。また、個人の考えを共有することが容易になったことで、互いの考えの良さを伝え合い、認め合えるような関係性が構築された。
- ②道徳や算数を主として、学び合いの機会を多く設定することで、多様な意見に触れることができるようになり、児童同士の会話が増えた。また、座席配置をコの字型や少人数グループにしたことで、全体に向けて発表することに苦手意識をもっていた児童も、積極的に発表や意見交換をするようになり、これまで本校の課題であった「友達の前での考えや意見の発表」の改善につながった。

(2) 研究の課題

- ①学び合いを推進していく上で、授業中の教師の声かけの質を上げていく必要がある。児童同士のやり取りをよく観察し、「つなぐ」「もどす」を意識した声かけをしていくことで、教師と児童、児童と児童がつながりをもつことができ、より対話的・主体的に授業に取り組み、学びを深めていくことができるのではないかと。
- ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着の一助として、家庭学習(自主学習)の充実を図りたい。自主学習のモデルを提示したり、共有ノート「ぐるぐるノート」を実践したりして内容の充実を促したが、更なる改善の余地があると考えられる。学年だよりや学級懇談会、家庭学習強調週間などを活用し、家庭への啓発と協力依頼にも取り組みたい。